

## 第1回 うらやす市民大学運営委員会 議事要旨

- 1 開催日時 平成21年11月4日(水)15:00~17:00
- 2 開催場所 うらやす市民大学 受講室
- 3 出席者 (委員)  
古在委員長、山内副委員長、宮崎委員、東委員、杉村委員、武田委員、山本委員、菊地委員、押尾委員(欠席2名 阪本委員、高橋委員)  
(事務局)  
市民大学プロジェクト 岩波、金子、一戸  
市民大学事務局サポーター 林  
コンサルタント (財)日本開発構想研究所(阿部、井上、長島、藤森、大橋)
- 4 議題  
今年度の事業展開について  
来年度の開講科目について
- 5 議事の概要
  - (1) うらやす市民大学運営委員会運営要領等について
    - ・運営委員会運営要領等について事務局より説明を行った。
  - (2) 委員の紹介について
    - ・各委員及び事務局より自己紹介を行った。
  - (3) 経過報告について
    - ・うらやす市民大学の開学から開講後の状況について報告を行った。
  - (4) 今年度の事業展開及び来年度の開講科目について
    - ・今年度の事業展開及び来年度の開講科目・スケジュールについて、事務局からの説明の後、意見交換を行った。
    - ・1月から3月にかけて、市民プレゼンツ科目についてはプレ講座を、校外学習については3回程度を行うこととした。
    - ・来年度(4月期)は半期制とし、概ね12科目を開講することとした。
  - (5) その他
    - ・次回日程は12月10日(木)17時から、場所はうらやす市民大学受講室で行う。

## 6 会議経過（主な意見などの要約）

### 委員自己紹介

- ・これまでほとんど地元との接点がなかったが、少しでも地元との、特に地元の方たちとの接点を持ちたいと思い市民大学に応募した。また、どうせやるなら少しでもボランティアして、お手伝いしたいということで運営委員にも参加している。
- ・諸先輩がたの若さに負けないように、まだ老け込むわけにはいかないというわけで一念発起し参加している。
- ・これまで運営準備会等にも参画し、今回もどの先生が何をおっしゃるか、どういうことを考えているのか、少しでもわかるように、たくさんの科目を受講している。
- ・学生という名のもとに大学に通えるのは嬉しく思っている。担い手になって、少しでも社会貢献できればと思っている。
- ・この市民大学をみんなで育てるということが一番大事なところなので、この運営委員会の役割は非常に大きな役割と思っています。
- ・事務局のサポーターという形で市民の立場から、市民が市民大学に行ってみたいなというものを作ってみたいと思っている。

### 開学からの経過報告について

- ・今回の経過報告は、各授業において、受講生に書いていただいた感想・アンケートをもとに受講生の属性、出席状況、難易度、理解度、満足度、感想・意見をまとめた。

### （まとめの作業について）

- ・科目によっては4回、ほぼ半分ぐらい終わっているが、このようなまとめ方について、事務局の手は足りているのか、足りていないのか。  
全ての授業でアンケートを取って、データ入力している。作業量としては多いが事務局サポーターの支援等を得て、手が足りている状況である。

### 市民プレゼンツ科目（プレ講座）について

- ・市民プレゼンツ科目を試行で開講したい。案として来年1月から3月に科目ではなく講座として開講する。市民大学の学生を対象に5講座を開講し、各定員は25名程度を考えている。
- ・市民プレゼンツ科目は、浦安市民だけの真価が現れる科目になると思う。

### （講師・講座の決定について）

- ・講師の選任はどのような形で考えているのか。
- ・ある書式でプレ講座の提案してもらい運営委員会で承認することになるのか。
- ・5つの講座をあげているが、講師となる候補がいるということなのか。  
今回は試行ということで、候補としてあげた5つの講座で調整を進めて、確定した段

階で委員長の判断をいただき、募集をしていきたい。

- ・スケジュール的な話もあるわけですが、プレ講座とは言え、最終的な科目に入ってくるのが前提にあるので、最終的な判断を運営委員会で仰ぐのがいいと思う。そうでないと運営委員会の意味がなくなる。
- ・どこで決めたということをはっきりさせないと不満、不公平感が出てくると思うので、手続きをしっかりと踏まないといけない。
- ・プレ講座の提案は、書式を決めて、その書式で出してもらうようにしたほうが良い。ある程度、プレ講座の企画が固まり次第、各委員にメール等の通信手段を作って、事前に通知し、意見をうかがうことにする。

(受講定員について)

- ・双方向のコミュニケーションを考えると25名は多いと思う。
- ・プレ講座は10数名の定員で行うのがいいと思う。25名とか30名となれば同じことを2回に分けてという気がする。  
現在、受講生が174名いる中で、単純に25名で5講座をやって125名枠ができるのですが、15名だと75名で、溢れる人が100名くらい出してしまうという理由で25名程度としている。
- ・講座数を増やせば解決するが、それは大変なことだ。
- ・人数が絞れないようならば、少しでも双方向のコミュニケーションの場をつくるための時間を授業の中に作るようにしたほうがよい。
- ・口頭で発言する機会はなくても、紙に書ける、図にまとめる等、うまい方法を見つけるようにしたらどうか。
- ・来年1月から3月に市民プレゼンツ講座(プレ講座)を行う。定員は25名程度をなるべく厳守する。

校外学習会について

- ・学生同士のコミュニケーションづくりを主な狙いとして1月から3月の間まで毎月1度くらい校外学習会を実施させていただきたい。また、事後報告となるが1回目は「福島第一原子力発電所見学」となっている。今年度は事務局において企画実施、来年度以降は受講生主体でこういった企画を提案していただきたいと考えている。

(福島第一原子力発電所見学について)

- ・原子力発電所の見学というのは、なぜ原子力発電所なのか理解できないが、東京電力の浦安営業所に、地域内連携、企業との連携ということで全面的に協力いただいている。
- ・原子力というのは反対の人もいるので、原子力発電所が無料見学を行っている背景を

理解し、全面的協力をいただいているとは言わない方が良い。

(候補施設について)

- ・その他の候補としては「歴史民族博物館」と「花野辺の里」と「予科練博物館」だが、浦安市内には行かないのか。  
浦安市内については、各クラス単位で授業の後半に市内の施設は行くという話はある。
- ・今年度は、事務局において企画を行う。

来年度の開講科目について

- ・来年度は前期後期それぞれ12科目程度の開講を考えている。その他に校外学習、サマースクールも並行して行いたい。
- ・今年のように3ヶ月に全部詰めてしまうと12科目くらいが限界であるが、2週間に1回というペースであれば、もう少し開講科目を増やせる。また、開講期間は8月中旬まで設定できると思う。

(開講科目について)

- ・授業科目の充実継続というのは、自分が継続するという意味か、または、この講義は良いので次の人のために同じ講義をやるという意味か。  
両方だ。
- ・受講修了生を対象として実践、ステップアップした科目については、受講生の希望とコーディネーターの理解があればステップアップ科目をつくる。
- ・浦安市の持つ課題について、直接対応し解決に繋がる授業科目については、課題そのものを見つけていく、市のどの部局かは未定だがタイアップしながら考えていく、プレゼンツ科目の中にも入ってくるのではないかと。また、コーディネーターは市と上手に対話ができないといけない。
- ・市のことを熟知している方がコーディネーターにならないと。市民プレゼンツ科目が発展してというのが理想的と思う。
- ・運営準備会で提案があり、今年度実施できなかった授業科目については、新しい科目としてありうるものを事務局でリストアップし議論をする。
- ・現役世代に対応した授業を平日の夜間、前期後期に各1授業科目設定をする。
- ・市民が提供する科目(市民プレゼンツ科目)については、プレ講座の成り行きを見て、評判がよければ開講する。

来年度の学期編成(スケジュール)について

- ・現在行われている前期後期を継続していった場合、シラバス作成等、非常にタイトな

スケジュールとなる。また、10回の授業では短い、コミュニケーションがなかなか図れない等の意見がある中で、1年制（通年制）へ移行するというのも議論していただきたい。

（授業回数について）

- ・学期にしても年間にしても授業回数の問題がある。文科省で規定されている一般大学の半期15回というのも現実には厳しく、実際には12、13回程度である。
- ・放送大学の場合では、スクーリングが90分で8回、一般大学では15回の授業だがガイダンス、テスト等で15回はない。うらやす市民大学の90分が10回というのはいいところではないか。
- ・半期6ヶ月という中で、今回は10回の授業が3ヶ月に集中し、毎週となるとハードだという意見がある。
- ・毎週毎週出てこなればいけないというのは、しんどい方もいると思う。それを半分にしようと思えば、10回を5回で修了するように1日に2コマで行うというケースも考えられる。

（学期制・1年制について）

- ・秋から夏までの2学期制にすれば、学期単位で試行期間は考えつつも、もし通年の方が望ましいということになれば移行しやすいのではないかと思う。途中で長い夏休みが入ると、通年制というのは途中で気が抜けるような面がある。秋から春、春から夏の2学期制でありながら、一応、通年で考えることも不可能ではない。科目によって学期単位で編成するものと、通年で編成するものと2本立てでも構わない。
- ・まだ1ヶ月経験しただけなので、今の段階で通期制とは、やや早急かなと思う。
- ・1年制にしたい理由に、同じクラスの中で知り合いを増やしていきたいということもあるのだろうけど、それは忘年会を行う等、別のやり方でやってみてはどうか。

（その他）

- ・ぜひ今年度の修了生に来年度は前にも出てもらう。シラバス作成等、結構日程はタイトには違いないけれど、受講生が講師になっていくというのをに入れていけばよいのではないかと思う。
- ・来年の4月から1年制にすると、シラバス作成などのスケジュール的にも難しいので、もう1年は半期制でやってみる。

その他

- ・サマースクール等、学習と親睦を伴う事業を実施する、サークル活動や学生の提案によるイベントなど学生の自主的な活動を支援する。この辺はそれぞれ必要だと思う。また、別に学生中心の活動というのがあってもいいのではないか。

- ・各クラスに世話人がいて、また、それをまとめようとしている方がいるので、そのような方向になっていくと思う。
- ・来年の1月、2月の修了に際し、受講生が中心に1日くらいなにかをしたらどうか。事務局で全てお膳立てをするのは大変なので、場所だけ貸してもらえれば、学生が自主的に行うことにしたらどうか。
- ・来年の秋ぐらいには授業で成果が出てくるので「うらやす市民大学秋祭り」を行い、市民にもプレゼンテーションしてもらい、パネルを並べたりできるといい。
- ・「うらやす市民大学」の新聞等を作りながら、受講生のいいところを発信することをしていきたい。
- ・うらやす市民大学の本来の力の原点でもあるので、自発的な活動をしやすいようにしていく。この運営委員会がそれをサポートする。